

喜怒哀楽の経験と記憶  
Joy, Anger, Sorrow, Pleasure, Emotions, feelings

2026.3.18

皆さん、おはようございます。

先週の卒業式、先々週は提携校である米国エクスペローリス中学校の皆さんとの交流週間でした。華やかで賑やかな二週間、その一方で3年生の皆さん、EMSの皆さんとのお別れにさみしさを感じている皆さんも多いかもしれません。

喜怒哀楽という言葉があります。もともとは中国の言葉で英語では四つの意味を個別に翻訳すると、Joy, Anger, Sorrow, Pleasure となりますが、総称すると、Emotions や feelings となり、それを日本語にすると感情や気持ち、心持ちとなるようです。

東雲中学校を卒業した先輩たち、米国に帰国したEMSの皆さんとの出会い、交流、そして別れの中で皆さんの感情や気持ち、心持ちの中で喜怒哀楽をうまく自己調整していく、いまはそのとても豊かな経験を積み重ねてくれている中と考えています。

EMSの生徒の皆さん、そして来日された三名の先生方とは私は昨年の9月に現地で初めて出会い、先日ここに東雲で再会をしたこととなります。その中で総括校長のジョシュ先生との嬉しい話題で少し盛り上がりました。それはジョシュ先生の故郷はEMSのある米国南部のノースカロライナ州ではなく、北部のミシガン州であることを今回にうかがうことができたのですが、実はいまから30年以上前に私が初めて訪れた米国の州がミシガン州でした。

ミシガン州は五大湖にぐるりと囲まれた米国の中でもとても特徴的な州で Great Lake State とも呼ばれています。この五大湖の一つであるミシガン湖で泳いだり、短期間でしたがウエスタン・ミシガン大学で学んだ経験は、もちろん喜びと楽しさだけではなく、うまくコミュニケーションがとれない怒りや哀愁も混在した日々でしたが、だからこそ私にとってもかけがえのない時間や記憶にもなり続けています。

その後にはワシントンDCやニューヨークを始めとする米国各地や、フィンランドやエジプトなどの世界各地の大学や研究機関にも滞在する経験もしてきて、実はミシガンのことを思い起こすことは少なくなっていました。今回のジョシュ先生をはじめEMSの皆さんの来校でこのような記憶と経験を呼び戻せてもらえて本当に嬉しく感じたところでした。

私が初めて国外へ渡航したのは、米国ミシガン州でしたが、それは23歳の時でした。皆さんは中学生にして既に渡米したり、今回のように米国の皆さんとの交流を経験できたりしていることをとても羨ましく思います。これからはますます世界中の様々な皆さんとの交流を通して、皆さんが喜怒哀楽の豊かな経験と記憶を積み重ねていくことを期待していますし、そのような機会を今後の東雲中学校の学びの中でもしっかりと実現させていけるように、この先も皆さんで力を合わせて、ここ東雲での学びをともに豊かに創り上げていきましょう。